



「自衛隊のイメージが変わった」 就業体験の高校生

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、7月2日（月）、4日（水）、5日（木）の3日間にわたり、浜松修学舎高等学校（浜松市）の2年生3人のインターンシップを支援した。

これは、同校が生徒に就業体験を通して働くことの喜びと厳しさ、さらに職業人としての心構えを学ぶことを目的として行った。

初日に訪れた陸上自衛隊豊川駐屯地（愛知県豊川市）では、隊員から駐屯地の概要や陸上自衛隊の任務・役割について説明を受けた後、初の国産戦車である61式戦車をはじめ、陸上自衛隊が保有する火砲・航空機などさまざまな装備品を見学し、その重要性を学んだ。

2日目、航空自衛隊浜松基地（浜松市）では、T-4中等練習機やF-15・F-2各戦闘機を見学。実際にF-15の操縦席に座って乗り心地も体感した。また、隊員が基地内で生活している居室を見学し、生活環境を肌で感じるとともに、教材整備隊で器材の操作を実際に体験し、各々の名前入りのシールを作成した。

最終日、航空自衛隊静浜基地（焼津市）では、隊員の基地概要説明の後、整備隊・消防小隊・気象隊・管制隊を見学。整備隊ではT-7初等練習機の操縦席に座り、前日に体感した戦闘機の操縦席との違いを実感していた。また、パイロットが訓練で実際に使用している「T-7シミュレーター」での模擬飛行を体験し、パイロット気分を味わっていた。

参加した生徒からは、「実際に機材を使った作業が経験でき、勉強になった」「隊員の方から直接話を聞くことができ、自衛隊のイメージが変わった」「航空自衛隊はパイロット以外にも多くの仕事があり驚いた」などさまざまな感想が聞かれた。

静岡地本は、今後もこのような部隊見学の機会を通じて学校との関係を深め、多くの若者に自衛隊の魅力を正しく紹介していく。



自衛隊の職場体験が人生のターニングポイントになるかも

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、7月5日（木）と6日（金）、県立浜北西高等学校（浜松市）の2年生5人に対し、職場体験を行った。

これは、同校が生徒のキャリア教育の一環として計画したもので、将来の生き方や職業観を養い、今後の進路選択に生かしていく事を目的に、航空自衛隊浜松基地（浜松市）及び静浜基地（焼津市）において実施した。

参加した生徒は、各基地の担当者から概要説明を聞いた後、管制隊や気象隊、整備隊など基地所在の各部隊を研修。消防隊での防火服試着体験をはじめ、T-4中等練習機及びT-7初等練習機などが配備された静浜基地の飛行部隊では、現役教官パイロットや操縦訓練中の航空学生からアドバイスを受けながら、実機のコックピットに座ったり、訓練で使用するフライトシミュレーターでの模擬飛行を体験し、パイロット気分を味わった。

そのほか、隊員食堂での昼食や、生活隊舎、浴場及び厚生センターなどの施設を研修し、職場体験を終えた。

参加した生徒からは、「もともと自衛隊に興味はあったが、今回の体験でさらに関心が深まった」「隊員の方が楽しそうに働いている姿を見て、自衛隊を進路の一つとして考えてみたくなった」「将来への新たな道が開けた。この職場体験が人生のターニングポイントになるかもしれない」など、いずれも貴重な体験になったとの声が聞かれた。

静岡地本は、自衛官という職業が生徒たちの進路選択のひとつとなりえるよう、自衛隊の魅力を伝え、引き続きこのような体験学習を積極的に支援していく。

